

| 評価項目      | 評価員からの意見  | 今後の対応   |
|-----------|---|---|
| 1 学校経営    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間で、学生の状況や実習施設の関係者の意見など情報共有を密にされている。</li> <li>・公立看護専門学校の経営状況について具体的な報告はなく評価に困ったが、長年の運営から問題はな<br/>いと推測し評価をつけた。今後は収支状況の報告があると評価しやすい。</li> <li>・職員による評価点は、評価項目中最も高い4.5であり、組織目標や課題解決に向けた共有が十分されて<br/>いることが伺われる。</li> <li>・少ない予算の中で優先順位を考えた計画的な運営が伺えた。</li> <li>・他者評価も踏まえて改善されていることが伝わった。</li> <li>・学生による学校評価では、一定の学年において他学年や前年度評価との乖離が感じられるため、分析<br/>をはじめ確認できるとよい。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織目標の達成に向け、今後も職員間で学生の状況、実習施設関係者の意見などを共有<br/>した上で課題解決に向け取り組んでいきたい。</li> <li>・県の組織のため、個別に収支状況を公表することは行っていないが、予算概要（支<br/>出）など公表可能なものは提示できるよう検討したい。</li> <li>・学生評価の分析は、各学年の評価結果を踏まえ、信頼性・妥当性の観点からも多面的<br/>に行えるよう努力したい。</li> </ul>  |
| 2 学科運営    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生への関わりがきめ細やかで、タイミングを逃さずきちんと指導されていると思われる。</li> <li>・授業や実習を通じて、看護専門職として身につけておくべき資質について学生にしっかり伝えている<br/>と思われる。</li> <li>・カリキュラム変更により学習すべき内容が増え実習時間の確保が難しくなっている。主な実習受け入<br/>れ病院として引き続き実習の場の確保に協力していきたい。</li> <li>・自宅待機者へのリモート講義は定着し、日々の講義や学生生活の中でも積極的にデジタルの活用を試<br/>みるなど、学生－教員双方の利便性向上に努められている。引き続き、改善の余地がないか点検も含め<br/>推進していただきたい。</li> <li>・看護師を育成することより人として成長させる関りが大変難しい時代（親の介入なども含めて）と感<br/>じた。</li> <li>・新カリキュラムで、地域・在宅看護が加わっているため、その実習で人生について学びを深められる<br/>ことを期待している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の意見を取り入れた学科運営を継続していく。</li> <li>・学科運営においてデジタル技術を浸透させるため、ICT委員を中心に全職員が一丸と<br/>なって取り組んでいきたい。</li> <li>・昨今、一人の学生を看護師として教育していくことの難しさを感じているが、指導向<br/>上のための研修受講を積極的に進めるほか、教員間での意見交換や勉強会などを通じ<br/>て、看護教員としての関わり方を研鑽していきたい。</li> <li>・新カリキュラムでは、人々を生活者としてとらえること、様々な生き方があることを<br/>学んでいる。人々の人生について考えを深め、寄り添うことが大切であることを教育し<br/>ていきたい。</li> </ul> |
| 3 入学・卒業対策 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産年齢人口が減少する中、看護職を目指す学生の確保は多治見病院にとっても重要な課題である。<br/>今後も連携を図り、当院からも卒業生の様子などフィードバックしていきたいと考えている。</li> <li>・HPだけでなく、インスタやツイッターなど学生に親しみのあるツールでアピールするのも一つかと思<br/>う。</li> <li>・国家試験では高い合格率を維持しており、個々に合わせた指導体制などの取組みができています。</li> <li>・入学生の確保、卒業後の支援については、どの学校も課題であるが、社会の状況に合わせて、様々な<br/>方法、対策を工夫されている。</li> <li>・卒業後のフォローも計画的に実施されており評価できる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学生確保に向けて、HPの充実に努めるとともに、適用可能なツールがあれば取り入<br/>れていけるよう検討したい。</li> <li>・卒業生については、就職先と連携をとり、卒業生の就労がスムーズにいくよう支援し<br/>ていきたい。</li> </ul>  |

|            |  |  |
|------------|--|--|
| 4 学生生活への支援 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットを活用した「健康観察シート」の運用は、タイムリーで、学生にとっても教員にとっても、効率が良いと思う。こうした発想が柔軟にできることがとても素晴らしいと思われる。</li> <li>・学生の想いを傾聴し、学生生活の満足度を高める努力をされていると思われる。</li> <li>・学生に少しでも有意義な生活を送ってもらうよう努力工夫されていたと思われる。</li> <li>・保護者面談の機会も増えており、きめ細やかな対応がされていることは良い取り組みと判断できるが、一方で、休学者・退学者の増加に対する、原因追求と対策を検討されたい。</li> <li>・学びの場の調整だけでも大変なところ、学生生活への支援は、物理的な面以外にメンタル面も踏まえた対応をしなくてはいけない現状を理解した。学生への支援をどこまで踏み込んで行うか難しい判断に迫られることが多いと思われるが、その点の定義付けなどして、先生方が疲労しないようにして頂きたい。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が学校生活を送りやすいよう、今後も学生の意見を取り入れつつ環境を整えていきたい。</li> <li>・休学者・退学者は、1年生が多く、退学理由は進路変更、休学理由は体調不良、進路再考である。体調不良の原因は進路への迷い、学習についていけない、家庭内の悩みである。様々な状況を抱えた学生が入学しており、引き続き個々への対応を丁寧に行っていきたい。</li> <li>・学生のメンタル面への支援は年々増加し、担任・副担任の負担は増えている。支援が必要な学生への対応については、スクールカウンセラーとの連携を図り、各ケースごとに最善の対応策がとれるよう慎重に検討していきたい。</li> </ul> |
| 5 教職員の育成   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の教育力向上に向けた取り組みの一つ、授業研究委員会は興味深く、その取り組みが連携を強めているように思われる。</li> <li>・他学校の教員による授業の評価など、能力向上に熱心に取り組まれている。</li> <li>・学生教育への情熱や自己研鑽の様子がうかがえた。</li> <li>・計画的な授業参観の開催や、新たに立ち上げた科目について、授業研究委員会を設置など組織的に教授方法の検討がされており、教育課程の中での科目の位置づけや関連科目との連携方法など、一貫性のある教育に結び付く手法として評価できる。また、科目担当者の負担軽減策としても評価できる。</li> <li>・自己評価により、教員の先生方も日々研鑽されていることを理解した。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の教育力向上にむけて、計画的な授業参観、積極的に研修を受講、受講した研修の伝達講習などを行い、今後も組織として取り組んでいきたい。また個人としての能力を高められるようキャリアラダーを活用した支援を行っていきたい。</li> </ul>   |
| 6 管理運営・財政  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、全国的に災害の発生頻度が増す中、喫緊の課題として、防災マニュアルを整備されたことは、学校管理上、重要な取り組みと言える。いざという時に備えて、教職員へは定期的に繰り返し周知して欲しい。</li> <li>・様々な危機管理については、マニュアルを作成しても実践できるかどうかにかかわってくると思う。今後も訓練を重ねて評価修正されると良い。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災マニュアルについては、職員会議で周知し、定期的に確認すると共に、防災マニュアルを活用した訓練も計画的に行っていくことで、より良いものにしていきたい。</li> <li>・学生へは4月のガイダンス、防災訓練、各実習開始時に説明していく。</li> </ul>   |
| 7 施設設備     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生を確保するためにも、環境整備は重要と考える。学生からの改善要望が多いトイレの改修はぜひ実現させていただきたい。</li> <li>・老朽化した校舎内で最大限の工夫をされていると思う。健康チェックのためのICT活用は有意義と感じた。</li> <li>・限りある予算の中、優先度の高いものと並行して、できることから創意工夫し環境整備に努力されている。教材備品の老朽化についても、今後の学習内容や使用頻度等を踏まえ、引き続き計画的に整備してほしい。</li> <li>・設備の老朽化は致し方ないと思うが、今後の課題として学生のための環境を整えてほしい。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の学習環境は、今後も計画的に整備していきたい。</li> <li>・トイレ改修などハード面については、さらに実効性のある予算要求資料を作成するなど、引き続き実現に向けて取り組んでいきたい。</li> </ul>  |
| 8 社会貢献地域活動 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの定期更新など、学校PRに向けた努力がみられる。今後、さらに見やすく興味を持てるような見出しやコンテンツの工夫を期待したい。</li> <li>・ホームページを拝見し、1年の流れが写真と共に掲載されておりイメージがつきやすかった。しかし、他校は多目的ホールやクラブ活動の案内などが掲載され学習以外の雰囲気が伝わるよう工夫されており、他校と比較すると構内の情報が少なかったように思う。社会貢献の場面を取り上げて掲載してもいいと思う。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もホームページを更新し、見やすい工夫をしていきたい。</li> <li>・学習以外の様子の掲載についてはすぐに取り入れたい。</li> </ul>  |